

## 【リデュース】（軽量化・薄肉化）

### ①一本当たりの重量変化

2018年実績として、基準年（2004年）対比で1本当たり1.2%の軽量化がはかられた。

1本当たりの単純平均重量は、基準年（2004年）の192.3gに対し、2018年実績は174.8gと9.1%

（17.5g/本）の軽量化がはかられたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.2%（2.3g/本）の軽量化となった。【表1参照】

残りの7.9%（15.2g/本）はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年（2004年）対比での軽量化による資源節約量は、2014年～2018年の5年間で、89,315トン（100mlドリンク剤びん換算 8億4,579万本）となった。

【表1】1本当たりの平均重量推移

	2004年 (基準年)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
生産本数（千本）	7,262,950	6,447,949	6,389,736	6,417,523	6,226,485	6,107,220
生産重量（トン）	1,396,582	1,158,682	1,154,359	1,149,118	1,103,207	1,067,713
単純平均重量（g/本）	192.3	179.7	180.7	179.1	177.2	174.8
単純平均軽量化指標	100.0	93.4	94.0	93.1	92.1	90.9
ネット軽量化率指標 (加重平均)	100.0	98.6	98.5	98.5	97.8	98.8
軽量化率（加重平均）		▲1.4%	▲1.5%	▲1.5%	▲2.2%	▲1.2%
軽量化による 資源節約量(トン)	—	16,452	17,579	17,499	24,817	12,968

### ②軽量化実績

2018年に新たに軽量化された商品は、8品種14品目であり、軽量化重量は436トンであった。

2006年から2018年までに軽量化された商品は、11品種254品目となった。【表2参照】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表2】2006年から2018年までに軽量化された品目

品 種	のべ品目数
小びんドリンク	小びんドリンク（8品目）
薬びん	細口びん（2品目）、広口びん（2品目）
食料品びん	コーヒー（17品目）、ジャム（13品目）、粉末クリーム（2品目）、蜂蜜（1品目）、食用油（6品目）、食品（7品目）、のり（1品目）
調味料びん	辛子（1品目）、たれ（7品目）、酢（13品目）、ソース（2品目）、新みりん（3品目）、醤油（2品目）、つゆ（9品目） 調味料（15品目）、ドレッシング（13品目）、ケチャップ（1品目）
牛乳びん	牛乳（5品目）
清酒びん	清酒中小びん（29品目）
ビールびん	ビール（10品目）
ウイスキーびん	ウイスキー（5品目）
焼酎びん	焼酎（24品目）
その他洋雑酒びん	薬味酒（1品目）、ワイン（23品目）、その他（9品目）
飲料びん	飲料ドリンク（8品目）、飲料水（2品目）、炭酸（3品目） ジュース（6品目）、ラムネ（2品目）、シロップ（1品目）、乳酸（1品目）